

Fano330-R-Morris

Fano330-R-Morris (ファノ 330-R モリス)は、アブストラクトゲーム博物館 館長の中島 雅弘によって、2015 年に考案された 2 人で遊ぶアブストラクトストラATEGYゲームです。自分のターンでは決して勝つことはなく、負けるだけ、という残酷なゲームです。

“Fano” は “Fano Plane” (位数 2 の射影平面のこと。Fig.1 参照) から、“330” はゲーム考案時に駒に使用したコインの合計金額 (¥100 x 2 + ¥50 x 2 + ¥10 x 2 + ¥5 x 2 = ¥330) に由来します。

“9 メンズ・モリス” に代表される “モリス系” のゲームと同じく、駒を 3 個並べることが意味を持ちますが、“R” は “reverse” のことです。 “モリス系” のゲームにおける勝利条件は、**Fano330-R-Morris** では敗北条件です！

マテリアル

- 7 本の「直線」(「直線」の項目参照)と 7 つの交点を持つ Fano Plane ボード x 1
- ○ 駒 x 2
- ● 駒 x 2
- △ 駒 x 2
- ▲ 駒 x 2
- 布製ケース x 1

セットアップ

駒が配置されていない状態のボードを広げて置きます。各プレイヤーは自分の色 (白か黒) を決め、自分の色の駒を 4 つずつ (丸駒 2 つと三角駒 2 つ) 持ちます。

遊びかた

白が先手です。

1) 配置フェーズ

プレイヤーは交互に、下記の「配置ルール」に従って、自分の駒をボード上の数字が書かれている交点に配置します。

- A) 空いている交点に置く または
- B) 下記の条件に従って、すでに交点に配置されている別の駒の上に積む：
- a. 駒は 2 段までしか積みません。
 - b. 色も形も全く同じ駒(○と○、●と●、△と△、▲と▲) は、重ねて置くことができません。

2) 移動フェーズ

配置フェーズが終了したら、各プレイヤーは下記のルールに従って交互に、ボード上にある自分の任意の駒を 1 つ移動します。

- A) 「配置ルール」に従って、「直線」(「直線」の項目参照) 上の隣の交点に移動する。
- B) 駒が 2 段積まれている場合は、上の駒しか移動できない。

直線

このゲームの中で「直線」とは、ボード上の下記 3 つの数字を結ぶ線のことです。

{1,2,4}, {5,2,3}, {3,4,6}, {6,1,5}, {2,7,6}, {4,7,5}, {1,7,3}

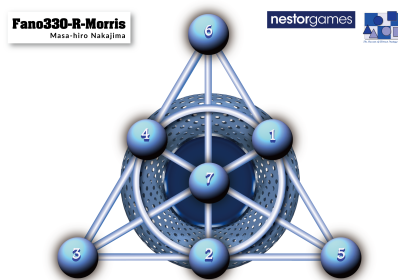


Fig. 1 {1, 2, 4} を結ぶ線 (円周) も「直線」です

ゲームのゴールと終局

下記のいずれかの条件がそろって負けです。

- a) ターンの終了時、同じ色、または、形の駒が「直線」上に 3 つ並んだ時。駒が 2 段に積まれている場合は、上の段の駒だけを判定します。(配置フェーズ・移動フェーズ)
- b) ターンの開始時、合法手がないとき。(移動フェーズ)

※ ゲームは、「配置フェーズ」で決着がつく場合があります。

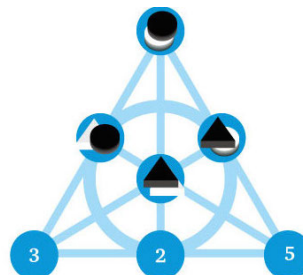


Fig. 2 終局例 1 (白のターン開始時): 合法手がないため、白の負けです

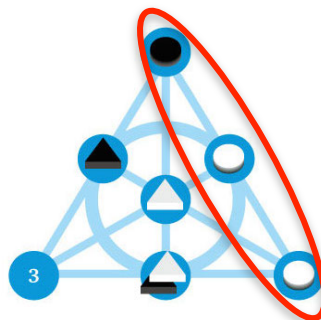


Fig. 3 終局例 2 (白のターン終了時): 3 つの丸駒が直線上に並んだため、白の負けです

千日手の場合は、引き分けとするか、先後手を入れ替えて再戦します。